

令和7年9月9日

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が 過去最多を更新しました

1 概要

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が、当県において本日までに13人の届出があり、2013年からの全数把握疾患としての調査以降、これまでで最も多く報告された2023年の12人を上回って過去最多を更新しています。また、全国においても、149人報告（速報値、35週（8月25日～8月31日）まで）されており、過去最多となっています。これまでSFTSは西日本を中心に報告されていましたが、関東地方や北海道においても患者の報告があり、注意が必要です。

SFTSは、主にダニ媒介による感染症とされています。病原体を媒介するマダニ類は、野外の藪や草むらに生息しており、気温が高くなる春から秋にかけて活動が活発になります。

そのため、レジャーや農作業等で屋外活動を行う場合、肌の露出を少なくし、マダニに咬まれないようにご注意ください。

また、SFTSは犬や猫などの動物にも感染します。ペットの散歩をする際には、ペット用のダニ駆除剤などを使用したり、散歩後にペットの体の表面をチェックするなどの対策をお願いします。SFTSウイルスに感染し、発症している動物の血液や唾液、排泄物などの体液に直接触れた場合、SFTSウイルスに感染する可能性があります。動物が体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意し、動物病院の受診を検討してください。

なお、マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、速やかに医療機関（皮膚科等）を受診してください。

※SFTSは、主にSFTSウイルスを保有しているマダニに刺咬されることにより感染します。6日～2週間の潜伏期の後、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛）を主症状として発症し、重症化することもあります。



タカサゴキララマダニ



タカサゴキララマダニ
（吸血後）



2 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）届出数

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全国	60	90	77	101	78	110	118	134	120* ¹	149* ²
大分県	3	3	2	5	7	2	7	12	10* ¹	13* ³

*1 未確定値,

*2 35週まで,

*3 2025年9月9日時点

3 マダニに咬まれないためのポイント

特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要です。マダニは、野生動物が出現する野山や、民家の裏山、裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

(1) 肌の露出を少なくする。

- ・長袖、長ズボン、登山用スパッツ、帽子、手袋等を着用し、首にタオルを巻く。
- ・シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる。
- ・足を完全に覆う靴を履く。（サンダルなどは避ける）

(2) 明るい色の服を着る。（マダニを目視で確認しやすくするため）

(3) 虫除け剤を使用する。

(4) 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認する。

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意する。

(5) ペットのマダニ対策を行う。（ペット用のダニ駆除剤を使用する、散歩後にペットの体の表面をチェックする、目の細かい櫛でブラッシングをする等）

4 マダニに咬まれたときの対処法

(1) 吸血中のマダニに気づいたときは、無理に引き抜こうとせず、速やかに医療機関（皮膚科等）を受診してください。

(2) マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診してください。

5 動物との接触について

(1) 動物に触ったら必ず手を洗いましょう。

(2) 動物を飼育している場合、口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝たりするなど、過剰な触れ合いは避けましょう。

(3) 動物に付着したマダニは適切に駆除しましょう。

(4) 飼育している動物が体調不良の際には、マスク、手袋などを着用し、咬まれたり舐められたりしないように注意したうえで、動物病院で診てもらってください。

(5) ペットがマダニに刺されないよう、獣医師に相談してダニ駆除剤を使用することも有効です。

(6) 野生動物は、どのような病原体を保有しているか分からないため、野生動物との接触は避けましょう。

- (7) 動物の死体等に接触することも控えましょう。
- (8) 体調に異変を感じ、医療機関を受診する際は、ペットの飼育状況やペットの健康状態、動物との接触状況についても医師に伝えてください。

○マダニに注意しましょう！（健康政策・感染症対策課ホームページ）

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12220/noyamatonisumudaninityuuisimashou.html>

○犬や猫から人へ感染するSFTSについて（食品・生活衛生課ホームページ）

<https://www.pref.oita.jp/site/doubutuaigo/20211224.html>

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課
感染症対策班 佐藤、北川
電話：097-506-2863

森・草むら・公園などに
生息しています



※マダニ拡大イメージ

その

マダニ

ウイルス をもっているかも？

病原体をもったマダニに咬まれることで、「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」や「日本紅斑熱」等に感染する恐れがあります。

SFTS とは

主にウイルスを保有しているマダニに咬まれて感染するダニ媒介感染症です。

春と秋は、特に注意！

近年
増加中!!

効果的な対策

虫よけ剤を正しく使う

1



腕・足などお肌の露出部分には約15cmの距離からスプレーしてください。

※汗をかくと虫よけ剤が流れてしまうので、その都度塗り直すことが大切です。

2



顔・首筋には手のひらにスプレーしてお肌塗ってください。

3



塗りムラのないように伸ばして塗り広げてください。

肌を露出しない服装

帽子

頭部を守るため

長袖

厚手のものが好ましい

タオル

首や胸元を守るため

長ズボン

ズボンのすそを靴下の中に入れると守りは万全に

靴、スニーカー

肌が出るサンダルなどは咬まれる可能性あり



虫よけ剤はムラなく
しっかり塗りましょう!!

※室内外で飼育する愛玩動物による家屋内持ち込みにも注意が必要です

マダニに咬まれた! そんな時は・・・

- ▶無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。
- ▶マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診療を受けてください。

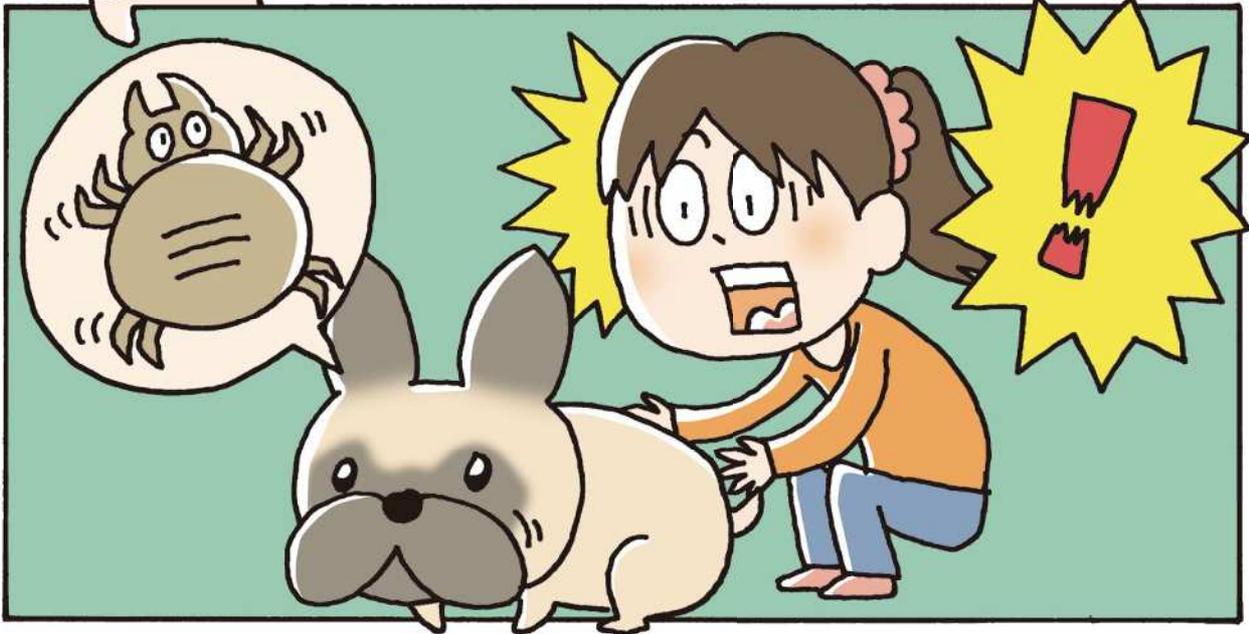
大分県 × アース製薬

大分県ダニ媒介感染症
情報はコチラ▶

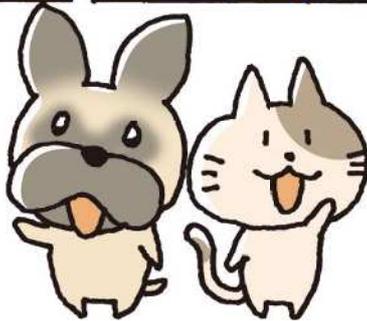


大分県とアース製薬は包括連携協定を締結し、安全・安心・健康な暮らしに関する取り組みを進めています。

マダニに注意 ダニヤン!!



予想**ダニ**しない
場所に潜んでいる
ワン!



ペットが感染すると
ヒトに感染する感染症が
あるから
注意**ダニ**ヤン!

【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・ダニ媒介脳炎・日本紅斑熱・つつが虫病・ライム病 など

ダニに刺されないポイント



- 肌の露出を少なくする
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する

野外活動後は入浴し、ダニに刺されていないか確認しましょう。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)などに注意しましょう。

ダニに刺されたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置(ダニの抜去、洗浄など)をしてもらいましょう。
- ダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

ペットのダニ対策

- ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談。
 - ペットが外から帰宅したらダニがついていないか確認。
 - ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ。
- ※ペットを介して、庭や屋内にダニが持ち込まれることがあります。

受診時に伝えること

- ①ダニに刺されたこと
- ②野外活動の日付
- ③場所
- ④発症前の行動



ダニ媒介感染症 厚生労働省

※各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考してください。

